



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 141 号

R5.12.15

文責 中西 勉



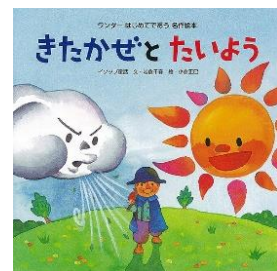
「北風と太陽」と“逆転の発想”

ある日、北風と太陽が、互いに力自慢をしていました。北風は、どんなものでも簡単に吹き飛ばすことができるから、自分が世界で一番強いと言いました。それを聞いた太陽は、どちらが世界で一番強いのか、力くらべをしてみようと言いました。二人は、「野原の一本道をこちらに向かって歩いてくる旅人の着ている服を脱がせた方が勝ち」という勝負をすることにしました。

北風は、旅人の服を吹き飛ばそうと思って、力いっぱい風を吹きかけました。しかし、旅人の服は脱げませんでした。それどころか、旅人は風に飛ばされないように、服をしっかりと押さえ、さらに寒がってコートを着てしまったのです。

今度は、太陽の番です。太陽は、力いっぱい輝き始め、暖かい日差しで旅人のあたりを照らしました。すると、先ほどまで寒かったその場所は、みるみるうちに暑くなってきたのです。あまりの暑さに、旅人は着ていた服を脱いでしまいました。

それを見た北風は、何でも力だけで解決しようとしていたことを反省し、力自慢をすることはなくなりました。



▲「きたかぜとたいよう」(ワンダー はじめてであう名作絵本 より)

ここに紹介したのは、皆様もご存知のイソップ童話「北風と太陽」(あらすじ)です。私は、過日、職員に「北風の指導はやめ、太陽の指導をしよう」という話をしました。この童話を例に、北風のように「子供に～させる」のではなく、太陽のように「子供が～しようとする」意欲を引き出す指導を心掛けることで、子供の主体性をより確かに伸ばしていくことができると伝えました。

また、先日、ある機関紙で、筆者の次のような言葉を目にしました。「子供ができないことを、“できない＝ダメなこと”とらえるのではなく、“できない＝伸びしろがいっぱい”ととらえたら、ハッピーな気持ちになる気がしませんか」というものです。この筆者の主張が、私の心にずっと入ってきて、大変心が洗われる思いをしました。

この二つの例には、子供の今の姿を“逆転の発想”でとらえることで、子供の主体性や可能性をより伸ばしていけるという共通点があると思います。子供の姿を温かい目で、プラス思考でとらえ、子供の心に響く指導や声掛けを大切にしたいです。ご家庭でもこの姿勢を共有してくださると幸いです。



【8・11・12組】心温まる交流会

昨日の2時間目に、8・11・12組の7名が、岡崎特別支援学校の児童1名と交流会を行いました。まず、一人一人がペットボトルやビーズ、モールなどを使って、自分だけのマラカスを製作しました。その後、作ったマラカスを用いて、「あわてんぼうのサンタクロース」と「赤鼻のトナカイ」の曲に合わせて演奏しました。8名全員の笑顔が輝く、とても心温まる交流会になりました。



▲自作のマラカスで演奏する子供たち